建設経済常任委員会行政視察研修報告書

建設経済常任委員会では、令和５年５月９日(火)～１１日(木)の日程で愛媛県松山市、今治市、広島県福山市を視察して参りました。参加者は小堀 勇人委員長、岡村 浩雅副委員長、加藤 朋子委員、髙瀬 一徳委員、執行部職員２名、及び事務局職員１名です。

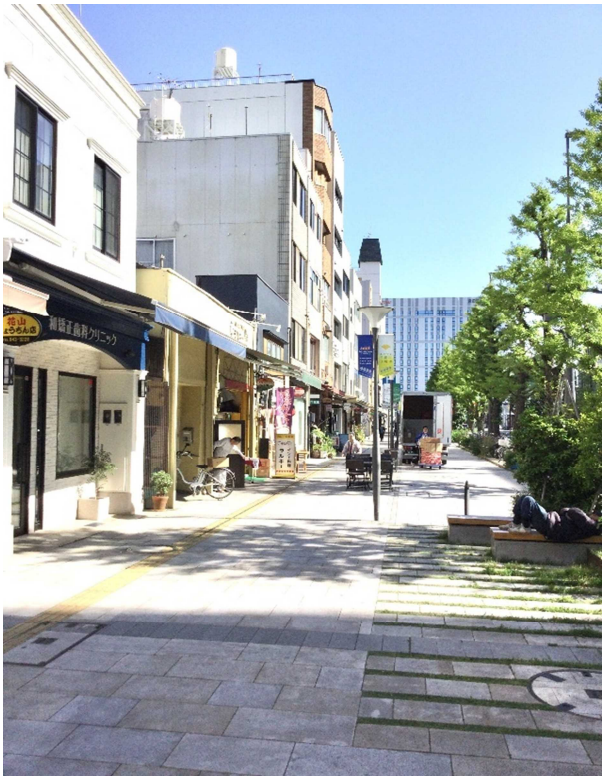
最初の視察先、松山市では「みんなで歩いて暮らせるまちづくり」について、２日目は今治市での「サイクリングでの観光振興」について、３日目は福山市での「鞆の浦グリスロ潮待ちタクシー」についてそれぞれ研修しました。

愛媛県松山市

○「みんなで歩いて暮らせるまちづくり」について

松山市は面積４２９．４０㎢、人口５０５，９７３人（R３．４．１）、愛媛県の中部に位置する市で愛媛県の県庁所在地及び四国最大の都市であり、中核市に指定されています。四国地方では、唯一人口５０万人を超える都市であります。

松山市では､今後益々顕著となる、少子高齢化、人口減少、都市機能・施設等需要の低下、経済の縮退を見据え、何を重視してまちづくりを行うのか検討を開始しました。そんな中、歩くことが健康増進と医療費節約を生むというデータから歩行を支援するための歩行空間の魅力アップ、歩行環境整備が重要との認識に至りました。そこで、発展とともに拡大・拡散する都市から、コンパクトで質の高い都市を目指し、市内４カ所の拠点とネットワークづくりに着手しました。



左：研修の様子　　右：花園町通り

平成１４年度から１８年度まではロープウェー街の道路空間再配分と景観整備について。平成１４年度～２１年度までは道後温泉周辺地区整備での歩行者空間整備について。平成２３年度から２９年度までは花園町通りでの広場を備えた道路について。そして現在進行中の松山市駅前広場での人の往来と賑わいをつなぐ拠点作りです。花園町通りは現地調査も行い、建物と道路が一体となった景観の形成やイベント等が可能な空間・設備、歩行者。自転車への配慮などを詳細に調査をして参りました。

松山市では、道路空間の再配分に道路の幅員構成を車から歩行者や自転車に配分する方式（道路を４車線から２車線等）をとっています。これには、沿道住民のライフスタイルが既に定着していることから合意形成が容易でないことがうかがえました。そんな中、まちづくり模型や交通シミュレーション、さらには実際の車の流れがどうなるかどうかの調査のために期間を区切り社会実験も行うなど、時間をかけて市民の理解を得ているのが印象に残りました。

本市においても、氏家駅東口のまちづくりが今後の課題ですが、とても参考になる内容でした。

愛媛県今治市（いまばりし）

○「サイクリングでの観光振興」について

今治市は、愛媛県北東部に位置する市で、今治市と広島県尾道市を結ぶしまなみ海道があり、大島、伯方島、大三島などの島々を結んでいます。人口は約１４．６万人で面積４１９．２１㎢です。計量特定市（計量法に基づいて、都道府県に代わって計量に関する職務を行うことができる市）にも指定されています。

令和元年１１月７日に国のナショナルサイクルルートの指定を受けた「瀬戸内しまなみ海道」。今治市と尾道市を結ぶ全長５９．４㎞のルートで、瀬戸内海国立公園に指定された瀬戸内海に浮かぶ芸予諸島の島々を、風光明媚な景観に溶け込む９本の橋で結んでいます。しまなみ海道最大の特徴は、自動車だけではなく自転車や歩いてでも渡ることができることです。また、しまなみ海道沿線への民間資本参入及び移住者が増加傾向にあるなどの特徴があります。

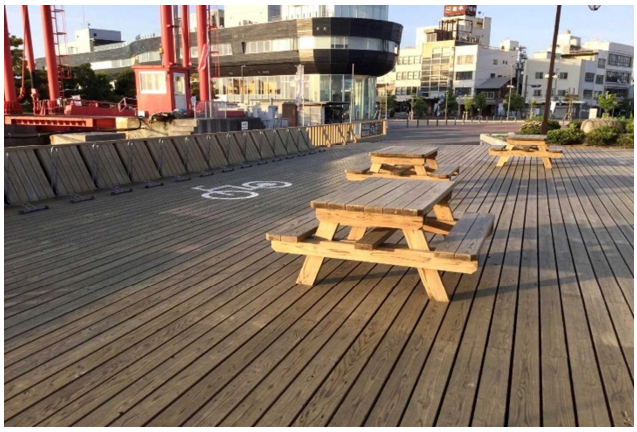
今治市は、令和２年３月に「今治市サイクルシティ推進計画」を策定しました。これは、平成２９年５月に自転車活用推進法が施行され、法９条に基づく自転車活用推進計画が平成３０年６月に閣議決定されました。これを受け、愛媛県が愛媛県自転車新文化推進計画を策定したことを受けて策定されました。

この計画の理念は、誰もが安心して自転車を利用できるまちづくりを進めるとともに、「自転車新文化」を推進し、市民生活の向上を図ろうとするものです。

しまなみ海道はサイクリングが有名であるが、この自転車利用を市民がどれだけ認知し、健康作りや脱炭素化にとり組んでいるのか、とても興味がありました。

この点、最近では市内企業４社がサイクルフィットネス事業を立ち上げ健康作りの面からの自転車活用は進んでいるとのことでした。またシニア向けのシニアスポーツサイクル体験会も実施され、市民への自転車への認知は進んでいるとのことでした。観光客向けにも、今治駅に駐輪場を整備し、市内各所にサイクルスタンドが用意されていて観光客のみならず、市民も自由に使うことができます。

研修の様子



サイクルスタンドが設置された休憩所

インバウンドに関しては、松山空港からの定期便が出ている台湾からの観光客が最も多く、最近ではオーストラリアからの観光客も増えているとのことでした。オーストラリアは長期休暇する人が多く、今後も観光客が見込めることから積極的に受け入れを行っていきたいとのことでした。

他にも、自転車について、「今治市自転車の安全な利用の促進に関する条例」があり、自転車の安全な利用、運転マナーの向上を図るために制定されました。

特にヘルメット着用が励行されており、着用率は約２９％と全国一であることも紹介されました。観光産業としての自転車だけではなく、市民の自転車利用向上も上手に行っている印象でした。

観光客へのおもてなしのみならず、市民への自転車利用周知、安全利用など、本市での事業に大変参考になる事業でした。

市内　自転車ナビマーク

サンライズ糸山　貸出用自転車

広島県福山市

○「鞆（とも）の浦（うら）グリスロ潮待ちタクシー」について

福山市は、瀬戸内海の中央部で広島県の南東端に位置しています。人口は約４６万人、面積は５１８．１４㎢で中核市に指定されています。

今回視察に伺った鞆の浦は、瀬戸内海中央に位置し、満潮時には潮が東西から流れ込み、干潮時には東西に流れて出て行くことから、その潮流に乗って航海する古来より潮待ち港として栄えました。また、映画やドラマのロケ地としても人気で、スタジオジブリの「崖の上のポニョ」、TBS 系日曜劇場「流星ワゴン」、ハリウッド映画「ウルヴァリン SAMURAI」などにも登場しています。そんな観光地としての色合いが濃い鞆の浦ですが、古い港町で坂道や狭い道が多く、観光客が車で狭い道に入ってすれ違うことができず、交通渋滞を引き起こしています。また、救急車などの緊急車両の通行にも支障を来しています。そんな中、地域公共交通網形成計画で「様々な交通の連携強化による効率的で利用しやすい地域公共交通網の構築」「多様な運行方法による過疎化・高齢化に対応した移動手段の確保」を基本方針とし、グリーンスローモビリティの積極的な活用が示されました。

グリーンスローモビリティ導入のきっかけは、国土交通省のグリスロ実証調査に採択されたことです。調査期間は平成３０年１１月１６日から２９日までで７人乗りゴルフカート２台を用い、病院などを経由する定時定路線運行、お出かけ支援運行、観光利用と３つのパターンで調査が行われました。その結果、メディア等で取り上げられた効果もありますが、総数１，０７１名が利用し、関心の高さが窺われました。その利用者の７割が本格導入に賛成し、事業化に向けて動き出しました。

本格導入に向けては、「福山市におけるグリーンスローモビリティによる一般乗用旅客自動車運送事業運用要綱」を策定し、福山市地域公共交通会議で運行が承認されました。このグリスロを運行するアサヒタクシーの決断もあり、実証実験終了後わずか４ヶ月で本格導入が実現しました。

研修の様子

グリスロ潮待ちタクシー

説明後、実際に乗車させて頂きました。充電８時間でフル充電。約４０㎞走行できます。平均速度は２０㌔以下、乗車人員は運転手を除く４名で、重量制限はありませんが、運転手を除き３名が理想とのことでした。ゴルフカートなので窓ガラスはありません。雨よけにビニールカバーが設置してありました。シートベルト着用義務はなく、乗降部のベルトのみセットします。

説明の通り、狭い道が多く途中車がすれ違える場所が設けられています。路上駐車してあるバイクの横もギリギリでしたが、通過できました。まちの人たちとも普通に会話できるスピードで、医王寺に向かう急な坂も難なく登れます。観光にはうってつけの乗り物と感じました。ただ民間タクシー会社が運行しているので、採算性や本格導入までの規制などの障壁の多さも気になりました。また、タクシー会社社長の先見性や意欲にも支えられていると感じました。

本市の導入に向けても可能性を見いだせる内容でした。

新型コロナも感染法上の位置づけが２類から５類に引き下げられ、本格的に観光誘客も図っていかなければなりません。今回の研修内容を市政に反映させ、観光客増、交流人口増に向けてしっかり取り組んで参ります。